



◆大使からの活動報告 9月号

(日本の伝統工芸展の開催他)

2015年9月25日

在グアテマラ日本大使館

特命全権大使 川原 英一

◎教員研修国費留学生を日本へ派遣:



サンマルコス県の公立高校で、英語を7年間教えておられるオロスコ先生が、9月下旬から日本に教員研修のための国費留学生として赴かれ、2017年3月まで、岐阜大学教育学部で英語教授法など学ばれる予定です。英語が良くできる高校生を増やし、当国で増えつつあるコールセンターなどへの雇用機会を広げ、若者の生活向上に努めたいとの思いで、英語を高校で教えておられます。今後、日本の進んだ英語教授法

など大いに学んで、当国の英語教育の向上に役立てたいと明るく抱負を語っておられました。

当方から、我が国による教育・公衆衛生・栄養改善分野での当国への協力、今年が日本とグアテマラ・中米の外交関係樹立80周年であること、日本事情に関する情報源などについて申し上げました。

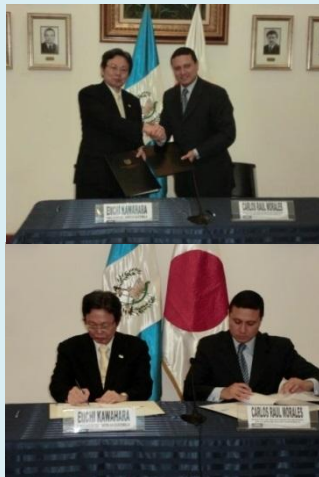
◆当国体操選手及び同コーチの日本での夏期合宿

日本体操協会からのお招きにより、当国体操選手(右写真、前列真ん中)とコーチ(同、前列右端から2人目)が、8月4日から8月末迄、日本での体操夏期合宿に参加したことは前回報告で御紹介しました。この度、同協会の渡辺専務理事より、当国からの招待選手とコーチが、五輪金メダリストの内村君(同、前列左端から2人目)など日本の体操選手達と共に充実



した合宿を終えた、との御連絡及び合宿参加者との記念写真を頂きました。渡辺守成専務理事をはじめとする同協会関係者のご尽力に対して、厚く、御礼を申し上げます。

◆ハンプロ無償(主要病院への医療機材供与)署名式:



1日午前、当国外務省で、モラレス外務大臣と当方との間で、当国主要公立3病院への医療機材供与に関する交換公文の署名式がありました。

当方からの挨拶に答える形で、同外務大臣から、日本はグアテマラの抱える諸問題を真に心配をしてくれる国であり、保健・インフラ・環境・農業・防災など他分野での協力を実施してくれている、日本からの協力はグアテマラ貧困層に直接裨益する有意義なもの、外交関係80周年の年であり、日本との二国間関係がさらに豊かなものになることを願いつつ、日本政府に対する深甚なる感謝の言葉が述べられました。署名式が終わり、必要とされる医療機

材の調達手続きは、いよいよ開始されることから、両国関係者の御尽力により、早期に主要病院への医療器材引渡しが行われることを期待しています。

◆総選挙の実施状況

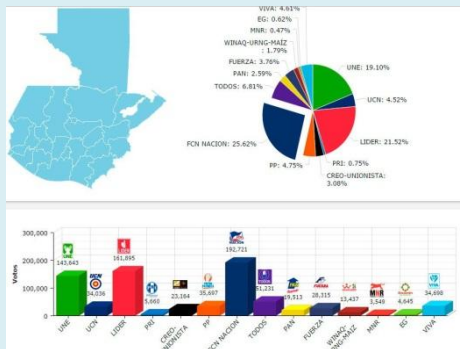
9月6日、4年に一度の当国大統領・副大統領、国会議員、中米議会議員、市長、市議会議員を選ぶための総選挙が行われました。6日の朝7時から始まった全国の投票所での投票風景を各TV局が実況中継(右側写真)していました。



6日正午時点で、既に有権者の半数が投票したとの報道もありました。同日午後、当方及び当大使館員が、グアテマラ市内の投票所(右下写真)や全国集計センター(左上写真)及びメディアセンターを視察しました。極めて平穏に投票が行われておりました。また、視察したメディアセンターでは、インタビュー要望



があり、お受けしました(左横写真)。



総選挙実施直前の9月2日夜、汚職疑

惑のある現職大統領が辞任を表明して、翌3日に、マルドナド新大統領が国会で宣誓式を行って就任する、というめまぐるしい展開が併せてありました。前回4年前の投票率は69%でしたが、今回の投票率も約70%となり、今回の選挙への有権者の関心の高さを示す結果がでました。投票は午後6時迄で、その後、即日開票され、

翌7日朝、大勢が判明しました。大統領選挙については、どの候補も過半数の得票がなく、10月25日に上位2名の大統領候補による決戦投票が行われることになりました。

今回のグアテマラ総選挙実施にあたり、OAS 選挙監視団が、各地で選挙監視活動を行い、大きな混乱はありませんでした。我が方から同監視団に派遣された在ニカラグア大の野口書記官によれば、視察した投票所では、地域住民が朝早くから投票所に行列をなしており、平穏に終了、その整然とした様は、意外に感じたとの感想もありました。

◆日本の伝統手工芸展の開催

9月9日、当館主催で国立近代美術館で「日本の伝統手工芸展」



(交流基金助成)のオープニングを行いました。10月4日まで展示されます。当日、グアテマラ市クエスタス文化委員長(元文化スポーツ大臣:左写真右端から3人目)、マサ同美術館





館長(同じ写真の左から3人目の方)、市の芸術文化関係者らの出席があり、開会式の模様は当地TV・主要紙で紹介されました。展示内容を見学した参加者からは、これまで日本に関連したこのような伝統的作品の展示を見たことがなく、大変に貴重な機会となった、展示作品が大変に精巧なつくりであることに驚きましたとの感想がありました。

■ 講演会:年縞(ねんこう)から知る地球環境変動及び小惑星探査機「はやぶさ」

ノンフィクション作家で獨協大学特任教授の山根一眞様(左端の写真、右側の方)及び鳴門教育大学自然・生活系教育学部で古環境学が御専門の米延教授(同写真、左側の方)の御厚意に



より、当大使館会議室で在留邦人向けに日本の先端科学を駆使した二つのプロジェクトについての講演会を開催しました。

米延先生は、年縞堆積物の研究に長年携わっておられ、最近、グアテマラのマヤ遺跡周辺の湖での調査活動に従事されておられます。グアテマラの過酷な環境の中での今回の調査活動内容に関して、大変に興味深い御報告がありました。

山根先生からは、(1)福井県水月湖(すいげつこ)から採取された年縞試料が、世界の歴史の標準時に認められるものであり、水月湖湖底から、きれいに連続した年縞が45メートルの深さ、1年刻み(0.7ミリ程度の幅)で、7万年分が残されている奇跡の地層が発見され、2012年7月、ユネスコ本部で開催された国際会議で、世界の歴史の標準時となる、という驚くべき結果となったこと、また、(2)映画化された小惑星探査機「はやぶさ」が、小惑星から微量の砂を採取して、2010年6月に地球に帰還するまでの7年間、宇宙空間の旅を支え続けた日本の先端技術のすばらしさ、プロジェクトチームの大活躍の一端をビジュアルに報告をして下さいました。

このように最先端技術を駆使して驚くべき成果が得られる迄には、研究者による気の遠くなるほどの長い年月と極めて緻密で丹念な調査・分析作業があつて、世界に誇れる成果を生み出していることを、山根先生に熱く語って頂きました。こうした素晴らしい成果が、専門分野の異なる極めて優秀な研究者による学際的な取り組みとチームワークによって生み出されていること、

また、現在から過去を知ることで、未来を知ることができるのではないか、という興味深い御指摘には、本講演参加者の皆さんと共に、大変に感銘を受けました。

◆当国への防災機材供与

9月24日、当国の防災対策調整委員会(CONRED)に対する我が国



からの防災機材の引渡式を行いました。プレス関係者も多数参加。急



遽、海外出張せざるを得なかったマルドナド CONRED 長官に代わって発言されたナバロ同副長官からは、日本から

大変に貴重な防災機材の供与に深く感謝しますと共に、日本政府は今回の機材供与だけではなく、長年に渡り、研修・技術協力を実施されており、日本の先進的な防災・減災技術が、グア



テマラのみならず中米各国の防災協力に生かされています、引渡し直後、グアテマラ市近郊の災害地でこの機材を活用予定ですとの発言がありました。当方からは、グアテマラでは、自然災害が頻繁に発生する国であり、今年3月の仙台市で開催の国連防災会議にマルドナド長官が参加されたこと、2011年3月の東北日本大震災、この9月にも日本で深刻な水害被害があった、今後、両国の友好・協力関係がさらに深まることを期待したい旨お話ししました。

日本風生け花を楽しむ会

9月4日、日本の生け花に関心のある当地の方々からの強い要望を受け、生け花の手ほどきを当方家内が致しました。当日、8名の方に御参加を頂きました(左側写真:各参加者が手前に



置かれたご自分の作品と共に撮影)。日頃、お花が大好きな方ばかりで、生け花の基本スタイルをお示した後、各自に生けてもらったところ、とても素晴らしい感性でお花を生けておられました。家内から、少し指導をして差上げ、参加者全員から、大変に喜んで頂けたようです。(了)